生き方お洒落人③

在日外国人との共生を願い
地域に根ざした開発教育活動を続ける

椎野紀子さん（61歳）

相模原市に住む椎野紀子さんは、長年、開発教育（※）をメインとするボランティア活動に励んでいます。

きっかけは１９９１年。淵野辺に、神奈川県国際学生会館が建設されたことに伴い、地域の受け皿として留学生支援を目的としたボランティアグループ「インターピープル・ふちのべ」を立ち上げるメンバーに関わったことでした。

その後、国際理解学習を進める過程で「開発教育」に出会い、日系移住労働者、中国残留帰国子女など、約1万人の外国籍市民の状況を知り、彼らの日本語支援として、学習支援教室を開講。また、留学生援助基金を開設するなどさまざまな支援活動に尽力してきました。

これらの学習の場を経て、高校、大学へと進学し巣立っていった子どもたちの中には、医療通訳として国際的に活動を広げている人、カウンセラーとして施設の相談窓口で働く人などもいて、それぞれの能力を開花させています。

「私たちには、熱帯雨林開発はできないけれど、人間同士の巡り会い、きっかけをつくることによって大きな力が生まれる。そのことが私自身の喜びになっています。己の心を拓き、社会が拓かれることこそ、開発教育だと考えています」。

また、市民活動を推進するＮＰＯにも在籍するなど、多方面からまちづくりを支えています。

エキゾチックなお顔立ちに、もともとのファッションセンス、グローバルな活動も影響しているのでしょう。エスニックな衣装を上手に着こなす椎野さん。こぼれる笑顔が素敵です。

※開発教育／発展途上国などの開発をめぐるさまざまな問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、共生できる公正な地球社会づくりに参加することを狙いとした教育活動。

●インターピープル・ふちのべ　http://interpeople.hp.infoseek.co.jp/